

令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

管理機関名(熊本県)

1. 取組についての評価

- ・県の将来ビジョンとの連動をしっかりと取ったうえで、「地域に必要となる人材」像を明確化できている。八代工業などにおいて、産業界の人材からCEO、実務家教育を提供可能な講師を選抜し、上記の「地域に必要となる人材」の育成に必要となる1～3年次の教育カリキュラム作成と、その実践まで行ってきた蓄積があることと、その域内での拡大を図った点を評価する。ある意味、マイスター・ハイスクールというプログラムの目的、成果を汲み取った王道的な取り組み。活動内に高大連携も含めており、視野の広さも評価できる。
- ・事業推進に向けて、関係者が課題を適切に洗い出し、産業界を巻き込みながら進めている。
- ・八代工業高校のノウハウを基本としながら、まずは4拠点校に絞って横展開を行い、そこでの成果・課題を整理してさらに普及を図る方法は確実性のある普及方法と評価できる。
- ・ノウハウをシステム化、見える化することで脱属人化を目指すのは、今後の横展開・普及に大きく役立ち重要である。
- ・事業実施過程で得られた知見やプロセスをパッケージ化する考え方は県内外へ普及を図るための一方法として期待が持てる。
- ・本事業を通して社会人基礎力、主体性、具体的に地元就職したい・貢献したいと考える生徒が伸びているなど、成果が見える。
- ・毎年アンケート調査を実施し変容を捉え、次年度へつなげようとしており、PDCAサイクルがしっかり機能しているものと評価したい。
- ・産業界の方々が自社への採用への期待のみではなく、生徒のよりよい未来の実現、企業社会的責任、地域振興など幅広い視点での理解が広がっていることは大きな成果である。また、産業界での認知度が14.4%から34.7%と大きく伸びていることも大きな成果と評価できる。
- ・県の役割を認識し、リーダーシップを発揮して取り組んでいる。特にKPIを設定し、長期的なビジョンを持って取り組んでいる。
- ・地方銀行が中核に位置付けられ、産業界、教育界だけでなく、力強い推進につながる枠組みとなっている。
- ・マイスターハイスクールへの応援を市のふるさと納税に設定し、不特定多数からの支持を得る場を用意した点が評価できる。

2. 今後の課題と考えられること

- ・今後、これまでの企業連携の取り組み、横展開の仕方などのプロセスをそれぞれパッケージ化していくとの話があったが、何をどのような形でまとめ、どのような方法で普及を図るのが課題といえる。特にパッケージ化する内容・まとめ方については精査が必要と考えられる。これらがうまくパッケージ化できれば他地域で大いに参考となる。期待している。
- ・特に重大な改善点は無いと考えるが、工学系に偏っており(TSMC展開等の県勢の影響もあるが)、今後は農学系人材の育成にも、これまでの蓄積を上手く活用してもらいたい。畜産を含めた農林水産業は、輸出産業としての潜在力も大きく(現状で約2兆円の輸出産業化。政府も2030年に5兆円規模での輸出産業化を政府目標に設定)、こうした政府目標の実現には、グローバルな視点でマーケティングを考えることが出来、ブランド戦略、高付加価値化なども同時に考えられるリーダー人材の育成が必須。農業分野でのMBA、MOT的な人材育成のカリキュラム策定なども国全体での課題として残っており、畜産・農林水産業の蓄積もある熊本県には全国の範となる活動をしてもらいたいと思料。
- ・社会人基礎力と関連付けた生徒の資質能力の変容が、従来からの専門教科の学習で身に付けられたものなのか、本マイスターハイスクールの取り組みで上乗せされたものなのかの分析があると面白い。(例えば、マイスターハイスクールに取り組んでいない学校と比較してみるとどうなのか)